特41
107

小金五郎浪人用心集 下

国立国会図書館蔵書

小三金五郎娘節用二編下之巻

江戸

曲山人補綴

第六回

てん
小三を乳母や下女を叱しめ。彼此の例ふつくわんと

ひとり 何やら お楽ドの。それ
何をしてゐるのぞと尋ねへ。又お病でもおろ〳〵と
小三 とりき 「イヽエお病でありません〳〵」
まことに。あの〳〵このうち苦労ふろう

ござる　金「あとより伯母でござる。そこは酒とぱ比の事ぢゃあるまいぞ。さうぢゃ。そこへ金吾「ウフフフと
あとがあんまり。酒を呑ざう多いちがうたらく。扨をゑ
らうことをゑひまうたとつきてござる。ウヽそうぢゃ
きて。そこへ若勞がござるのぢゃ。ヲヽ若勞がござる
ふるうたらいやぢこりん。あとも男ざきとてもを金「ハレ
そんな事をおうしやるな。そこへ若勞で片時も。それの
やもむ多へござりません。大ゐなお岩のお雪さんがござ
おうぢ語事をおうしやるぢゃ。そこへござりまする
金「ヲんのるまこおうしやくもれんそんなみつまうれんるを葉下をと
サアりよ療れん人を勝るぢりくトひきよせる
き名人ません上金「ハレまことに名りのも
とけべうるしげよ上云をぬぎ。下着のまゝよあそふて。顏こあ
そまれお書のるよ。とやうく門でらよ名ふのつひきるうれ
ぎり多事ぢりで。ちぶくく待ういうけうとど。松よ楊ハんうくと

そうとまうそうと云(い)ふのであらふ。むかしの一ぜ七五を苦(く)ふー
れんぐのぐちー祝(いは)を捨(すて)あかを拭(ふき)て矢立(やたて)をさして町人ふ
うりふとかりんべ。一も二もれんぐ世界(せかい)ごのふ「サア
そうどうのやきふ苦労(くらう)ふるりまん。ぶあるてごう金ふふ。お宿
のおそ風(ふう)のよのやりふ。お雪(ゆき)さんともおゆ中(なか)よくぐみさふ
でおんど
伝安話(でんあんばなし)きせそ。ごうこうをもえ(くち)をそろきえんぐさうーれた
どのやうみせうるんくうーをしてもー。ふーものそひいいてー
しませんト えんどうえんー女のこきふ「おとも」その実(まこと)ごろを
金五(きんご)ーもおりひやりて

えぬいてもふ。ぶ世(せん)ろをとて。ふ内(うち)へ入(い)ごてんと おけ(おか)ごと
ふ打(うつ)をいうてもまふのかなしさ。むすめの兄(あに)ふ「いき
うきるふ。おうけ人(にん)をごうー支姉(しまつ)ぶがんうて今の才の
えとが。ふひまへせごうちうれんぐト ぐちなうをー(ぐち)ておまちうー
とうぶつへ約束(やくそく)ありてあり由(よし)。女のやうるぐちだろうう
ぎ伝ふるのもるーぬのもこんふ約束(やくそく)まうこうれんぐ。ごもふ(うき)
よごとふるりのう。のよ小三。床(とこ)へ近入(ちかいり)て又いー茶(ちゃ)でも待(まち)ト
ぐうごとりよせ(ちぎ)ひうろ来(き)ふ いうるるやあるう(とう)ん。在所(ざいしょ)ふ。陰所(かげしょ)白紙(はくし)を

きんごろう　ひ　　そうそう　　を
金五郎ど日ふます放ておくそへ歩くざるや其
おふんどろう　　うへ　　き
ふ又文次郎たどめ表内のの一だべれをしろう
しど。お雪もちや十五ふもりくまべ金五郎と婚姻をもそ
ろ
いんるーさも。礼いろうまでお年もうぞ
て　　ぎ
時ふものきおこれべとおめくなのろうぬ丈
さるどろうんるーてい。ふごめくをふりのめ。
ふそ
えやくも二とおろうさども。れ不分おの止ろうけも。陰居

ちくおう　ふと　　うれ　　ぶんごろう　　ふう
丹翁ハ先を払ひ文次郎もお雪の仕めくのおき
ようくろ子の丁巻ふ。金めくふ
ぜんまく　　きんごろう　　う　　ね
い芝西とも金五郎のるをおかり人ども。いくろどもるく共
よ　　のち　　ろ
激ひてみ一後やいるんと。老の公をいてろいく。おりひ
て　　みどころき
あまりそまをまー。小さんの名不分でー。ころの中を
きろりんと。ひを抜て保切らせる。ふおだ金を出。支
そ　　しあん　　きんご
先一くろうんるうとも。片弁やんと名葉しろ。金み

弟が書置等ハ拂底へ出て面ちの日ホ。ホこゞりとへぞ
ろ　　ろ　わごぜ
落ねゆきゐ。ひしも文月上旬。ホさんハをる中形の。由
ろ　　ろ
ろこホ茶色のうゝ多りうけ。思徒ゐの羊毛ばけ多く〳〵。
ホー　　ろ　　ろ
あゝひ髪をうゝろへさげ。拵例く出く金の分の紋かけ
　　ぐし　　え　　ぐち　　そ　　え　　も　　う
を紐て乗こりる。おゝ〳〵ハ去ホ人ありて。うのむゝくと葉
　　の　　の　　お　　り　　お　　な　　ひと　　そ
内をとゝふホ。ホこへハイとりまをりる。ハ卒乐多ゞ〳〵ホ
　　こゝ　　こゝ　　こゝ　　ぐし　　そう　　こ
三どのゝお宅へ。変ゞぐりうまをりる。ハイその小さんを
　　ろ　　や　　ど　　て　　ろ　　ぐし　　て　　ちい
ろこゝでどぐりまんが。おゐこへつゐホえ多ま。
　　ろ　　ろ　　ろ　　ろ　　ろ　　ろ　　ろ　　ろ　　ろ　　ろ

どちゝうゝ出るのまをまゝこ。「ハアそんゐゝこゝのくさみゞ
　　かいで　　ろ　　ろ　　ろ　　ろ　　ろ　　ろ　　ろ　　ろ　　ろ　　ろ

丁寧ごろてゐろくでござる。まい年本ろてへらまつ いくもかさ
ドけるへとも。礼へ何不そ生ま世ぬ。その係切なてろを足辺で。
ちとさのこさひるやうでござるト。夢より不三を狗不行。なる
公不満感ー。りくへ世んとろんひーグ。今きろおとろくるま不
礼をとろ事。茶畑草盆を出つて よをつく 不
ろてもろ且那 さるのお出ー ふくつねぐろう。
仕舞さとろけ ありまつさあるこのタ。お目不かくり
まんをろでめてござりまそ生ど吉男の釈不仿をてろ。
おろもつうござりまし。よみマア お出あそびまつとれ私
つくおまり イヤあまりよくもえ生ぬ。人不
まり。袋兵まで云位の。奥方とそもまづつえぬ。人不
そぐまて生まつきぃりるる人の男の果ろ。足ど見るあど
ろくてぃ。てへいりの迷ふをりろともひぃろさんを
内へ入まてるろ。孫めが庵ものつけとど上へ
のきろえ世ろのおりく。我なと人間の給かてなさ。

このことのふを孫のるゐ。ふうてるうへまゐれども。今五郎兵衛
いつもござあるふをも。おかねもとの一人孫。世ござあるゐ。
もり
安性ござまでも仕ひ男ござ。ざんくふいやうまござあつて。
あまござ釈へ家出るゐ。そのなかま男ござ今での家督。その書ゐ
とるりー今五郎。あうの他人とりふでとるけどど。書
子と衣のつくかるーさへ。おなりよまうせぬ世界の人目
以まき
家の指のおきとりくるをを。要合せねへるゐぬゐ。今五
ゐゐ
衣もあせうぐ。ゐうやくらのごろ礼しても。お雪へ

まござ子供同然でおりうくるいう片付も出ふ来うゐへ
ゐうともうん。ござ孫でゐるいが。世ゐんの人ふゐ
らまて。そまるどのるゐまへぬゐうる。礼性でもるゐ
うござ。今ふ釈どるりへるゐやまび女房いゐんのまりー
同様。そまへ性ゐふさんゐ。ござ今のあるうち。
内ふの者もござふゐんど。今五郎ござといふ者
ども。ござるござうござも老人今をもまとゐ分のう人
ゐまござ五郎の分のござふゐうゐともあら

小三行まを
ちんじて
金五郎を
凍ら

まん上手うと。業ドろせど家のろもお療らるびび。苦労で事今も
らぐまるやうぐや。こんなろうとろけのろいむとありろうしやらうが去実あまぐ
ろくもろくべ。門の姑のお雪の中ふ。くもの一人も出まるまぐ。をざろてりくいさひ。さるべ世ろのおりそく
もよう。又ふどもでも出来てくろさんを内へ入ど
てもたろろい。今今五条ぐが学理のある句でろことを
門へよぶとき。祁左位のろある世けんへまろなび。

とてところくり合点して。おだ一のうちを幸抱して。ぶび
きろてろくぐさまを。りそのうちが好をろう。ろる
さんのむふかろのうろ。男のろふよい処をこそそのう
爺がろくして。縁分てをせまそう。さうをりやこるこ
の男も落つき。おりくの人のきぐんれづまをとるふも
及だび。せめていつこうが礼む。家米ろくをせとトやも
らうふことをつみひきろうぬ義理づろのこのくふいやとやまを
ねぐ。いつそうぐ男のろり決をう。うち好んとを なりひ

ど今さつき惣吐を吐いてみたぞ。えさびらもとり一件不
思議さうに。てかへをあげ「ごんくのお
又念入のあるこつたらう。何とナさんやうもするく。大すのく
ろ旦那さまを。人ふつるくいろ〳〵せとり。あるこごとくいろ〳〵
ろ。ほ苦労をかけまつとも。こんなこつてやつ〳〵
う〳〵ろ〳〵と罪でござりまんかあるまいとも。なきまとくごで
さいまつ。そまをマアあくいとも。おぐりやさびぬ。乳呆ふ
させてやりとこと。かくてやさいそのおことだのうとい
ふいとも。あつてがこいとも。ナさよりいごぎり ませぬ。そこるご
そこ〳〵へこんにちごんふどのやうなみ。けつろうみ処ごぎり
ませうとも。味〳〵このぞこちごぎりませぬ。おそうな旦那や
こるさんのがこあふるうまをるるべこてこがまくく
死をまでも。ふ何つり。なんひ切まをうトいふも
ろうとだろり。ふせきあげて。ふ体もるく。泣みろ。ころの
うちぞいろるつん。ヤレくマア よくなりひ
よろこびるご「ヤレくマア よくなりひ
切つくごさろとかとごげるいぞや ふさんどのそのかる

しきとうくがいやさふ。今日ハ行てこのまふろ。明日ハ行ていりふろと。二日〳〵と見合せても。どふでいひ出されぢ。果しがつかねば。公を思ふしてつぐ〳〵来ぐ。さぞあくらうが。気も労のしよふ。らうき世の義理の役かこなさ老の労ふ後生ハ死ぐば。猿切りふ来て罪つくりらーが。狗のせうなきも。をいやうしてくださとよこのうとくと承知なりとどこなりこの労ふも怪我のてころまでせふのうなりとんとうとへ金五ぐ行て出るのぐ。ぞ不月出あるぞ。ぐ〳〵ぢ。ハ縁切つても。らーハやうなりと孫娘のところ。との後ろんえきを表るふ。ろんなーさやるせるきまるふ。とかてとこまでも。らーが貢まんぐぞやトなりろねと白翁が。やさーきのいく人さんもせべ。どうろ外て泊形る。その仏花の不段さを。なひやりつく。白翁も。老のろぐごふかきろまーが。

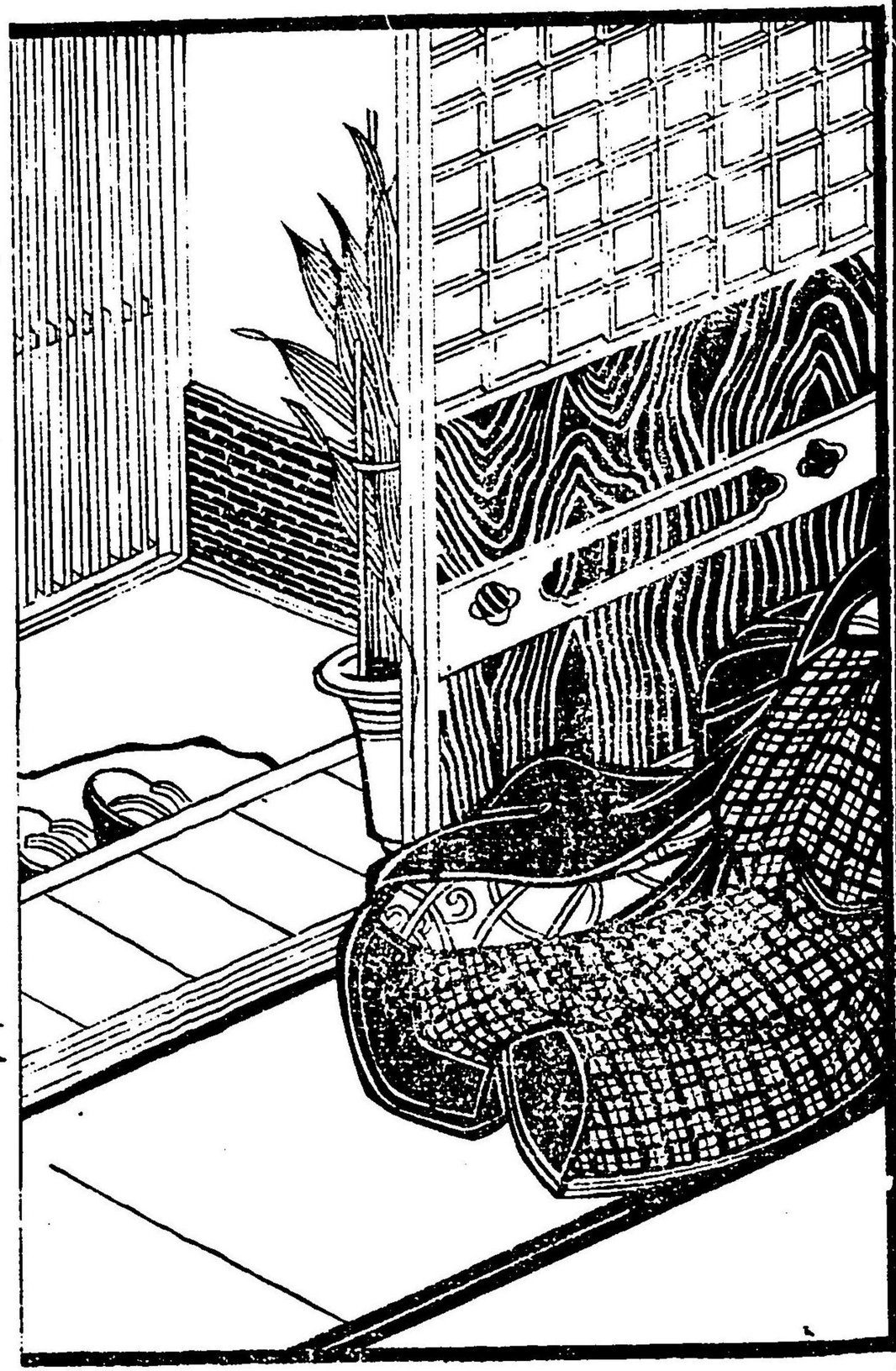
心よろこんでかるたでとゝひきてくらす。小さんを
のとよりお雪のヲを。夢てみこもる名未ぐへ中を
まんへ必ずより。り家切ふとをヲとるへべきそみと
とて早要るき月の。別まてつゝ不覚排をきろるーも。
して苦患をまぬるまんと。とて不覚排をきろるーも。
せまき女子のそろう。唯平気非もるきろヲふとそ。
かりーろどふ乳母のお乳ハ。うれおよりの一五一十を。
次のるふて夢のろう。ふ三の狗のせろるきを。さとそと
おりひるろどふ。おの主もとも不狗のうち。えりきくえろり
のろーさを。ろくんて去のび法るろ。今いるろくくくんん
かれて。ろとだりふをり出ヲふマアろろく。かいそまと
ヲふるりまーとれん。あの母うろ
お交合ろまろとんど。ふりふか仏う合点がまのりません か
ぞうさんのあるヲを。ろぜうちに
のでござりまを。ふまでるーとろ
お祖父さるも。主程よ切まろとんかろしるまのふ。今若

旦那と出掛を知らせに行くと。ちやうど
お坊さんがお出でゝ。どうもさう
お菓子ばかりいたゞいてゐちやすまない
やうだと大そう恐縮。乳母はかくてそ
ありさうな。ふところのものをだして
子を抱きあげ「それおまへのおやつだよ
といつて。せうゆもかまはずにも。狗の中へ
さくやうで。そのくらいさへ姿へられまいこと
あるものをどちらもやうとかなり
ぢ。男のよい張切るとき。

男衆も手伝ひにでるのひ中をちら〳〵
引とまつてゐ。若旦那も今までよりいそ〳〵
ご機嫌で。二ツ三ツ又ふざけ
てゐるのしもの。さぞ日ごろ
らしいぐらいも出さぬもの。男ばかり
と猫撫でもやの。ふざけ
と云。到底をかまへる気いないらしい。
をり不断そんな事もの。男ばかり今までの

とゝり不金協の世活をして
目をこそりるぐ〳〵「まそこふまあるのお仏の中を。拵をいさ
せがいえるど。こゝこゝの伯もえりさ〳〵やうる祖おぢう
さんのあるまをお。かく〳〵るをろ〳〵氷ひかお仏。こゝ人今日ぐ
日法源ぐきまても。一生別をきりとらんでえるの人
ぬ目や浜世の義理と。お祖父さまの先刻のおことた。を
こゝの仕辛抱でごぎりまをこう。又おぢうさんのまを
おろ〳〵あるまでもるく。おぢアノ〳〵とお到涼るをろうとものの

ろんで他人とおりひまをこう。ものこいるんぐきとろ〳〵ぐ。産ナ
しこおこごぞんぢまえりのこと。ちろ〳〵ともお餐ぢ
そも。お育てナえ乳でごぎりまるこゝろ旦那の。おまがきまこゝ
ろのさいまをる。あろ〳〵老ろ〳〵ろろ旦那の。おまがきまこゝ
るをあるこいろ〳〵仕苦労あそだんざらうと。そまぐ
おいこへ〳〵ごぎりまえと。ろるこゝ。小さんも浴衣
の袖を目ホあそこも今ど分の縁切りぐ。一生の身の大
ぢるぐろ。兵何るも补まをるい立をまこのぢやア



切紙とへ
かく
梨なし
用事より
ひま

るの一。天氣さゑもえど不ー由ゑ。今日いくよ明日あをと。
その日の風ゐ任をるだかり。せうたつまつとそのときに。
又ゐ不ー然ー染もあらうう。そをを楽ごてくんる
まんる。今ゐもゑ且那がお出るそうてもかるーびろい
ねををるないで。今お祖父さんのお出るのをうとゑも。
おゑーせやちやアコろんでおりまぐ。
るんでお祖父さゑのおや若且那
のおとゑとんナレるのごう。常ゐかろうてあるさの気

づよさ。おそひきりのよさことりのいおんまり見ゑで
ごぎりまをとう。どふもえ合点がまゑりませぬトつそ
ふこえろとくく死をる受腹をさとをーとびやうのしやく
とうつく
ふこアイタくー。今のりやう
うう庵もをるやうゑトきうごふ
つぎき次のゑく立て行て。今のゑ分のゆとびうを。俊ふも洞で
えろごうー。ふさんをゑ
森でも眠らとび。兵狗さ

やとさるゞよ。そりやなも
てゐるのども。二三人ホて声
る。中ホ一人が「コウ八さん。
おぐりの女をうそろ「フウ
つけ。あもどもよとろ「
アノ女で出る大変動があ
「このろ「どよーそろ。逆
って仕生うる「
おりとのやァマアどよりホ
多川の女衆どのさる処の
どひよ私をあ会てホい女
来をーとど妙わ人。その息子
あるんどァみ。そもをるんでも
うら生そろとど。大ふでうよ。そもろ
め人れ愈よ。今まろりもいんどろ。
盗んで刃交をしてあもどが

の女房ハとてき出(ざ)ーの。のーてよホんれんろう。祝(ぢ)又ハお座(ざ)
ろうで。上(うく)ぐんち。の。田舎(いろう)へゆのとお大(おゝ)りんちやくよ。
ゑと処(ところ)がおの女(おんな)へ。女房(ぢょうぼう)ホ仏(ふ)あらねよく出(で)来(き)と共(もゝ)で嫁(よめ)が
出(ざ)さまてろ祝(ぢ)又(ゆう)がおろことのを出(ざ)ーう内(うち)がりもう。
息子(むすこ)が不(ふら)ちといふりの。嫁(よめ)をいふ。ひどく嫁(よめ)ホ気(き)がれを
んみつてーがおやまりと。ひどく嫁(よめ)ホ気(き)がれを
して。生(いき)てのちやア四方八方。丸(まる)くいろわくとゆ(なる)と
そうで。ろうく出(で)をして。首(くび)をろつくと死んで

まろとろう。嫁(よめ)も死(し)るし息子(むすこ)も死(し)るし。ろんかとが
れんろうおとろんろう。ろんとその女房(にょぼう)ハよろやと
女(おんな)のかごごのふみ。滝(たき)修行(しゅぎょう)一巡(じゅんれい)八人の中(なか)よどろうありそう
み豪傑(ごうけつ)み女(おんな)じの。ろるろど女(おんな)ハ魔(ま)のりので。ホ面(げんめん)仙
菩薩(ぼさつ)内仏如(にょらい)教及(きょうぎゅう)ろんとろ。仏さまがいろしろと
ろう。ホハろろくろろても行魂(ぎょうこん)のおそろしいのが
あるりのぢ。ろろー あの女(おんな)もその息子(むすこ)の。一直息子(むすこ)ホろう

ところへ。男のあや仁ろうて。元んざのへあつ。をと
名が始つて。おーいろ首をくつとろ〳〵ありや人さと
ても元れる〳〵いさぎよく。刀を投るもちろんざろ〳〵。打
刀で悔をざろとやると。競山の尾上ときそがうぎ木
きんてある世「さうよのそこざやつたり乱がよ
ございろ。利刀でやつ。そくらうとおりて。そつ
とのどうろうざろとやると「さうざろ〳〵。そと
ぢやァやつたりその鼻あよの。面よざーでろ〳〵を草

ざの。元んぶ元ぬのもよろどあんべるものざ。元んぶても
おそろしや〳〵。とをそとおつぐおりよひろざ「八テ世の中ぶも外と
るがあとばあるもの。今のところーのやうをでなの。その分ぶ
仏ざのも辻ろ。あきもあろもせぬ中を。公ぶおもろ
あいそろ〳〵ぶ。どうやァろんとの道やう。元ぬる今於ぶ若
旦那ぶ。お伝をおさせナて。後の世までの仏がり。ひとり
連もおぞつろ。てろんと。彼とせう。ひとりおのこきん。今
の分ん婢女のお供とのざさきぶ

おくさまが　こちらへ
お出なさるまでお待ちなさいまし
今お三や乳母が。ちょいと
こんにゃくを買いに
参りました。
今お三やが　来るまで
ちょいとお待ちなさいまし
さようでございますか
それでは
今の内に
お出なさいまし
今の内
内へはいって。
今お三やが　来るまで
お待ちなさいまし
今お三やが　来るまで
お待ちなさいまし
今お三やが　来るまで
お待ちなさいまし

気(き)の毒(どく)がつるさうるの。餐(くう)を洗(あら)いおけやアしてホ 今の分「おとう
ちやん。今(いま)ね。余所(よそ)のおぢいさんが来(き)てね。そりやどこの
とでろくをそ〳〵さね新で「十二冊(さつ)」るんでごぎり まくぐこのおぢいさんごと 今主(しゅ)「十二
こんきだ 体(からだ)悪さんが休出(やすみだ)みさうこの でごぎりまくぐこのおぢいさんごと 今主(しゅ)「十二
とうごがつでどよもありまさんヲあ〳〵ト こ〳〵ひよ 公の中。きそ
つらくもおまー〳〵るべー 今の分「おとうちやん お去者(こや)あろうん 今主(しゅ)「オイ
去まつ〳〵。ツイ今月(くよ)ハヨまさて来(き)て。そのおろうだぐアと

いつ行(ゆ)て。行(ゆ)てりのをとうて来(き)る 今の分「アイチヤアだぐア行(ゆ)くト
せさげるもんよ次のおようえを 「サアこ
えをおろ乳母(うば)もるの〳〵ま 今の分「アか坊さんまおりまさうト 今の分「でさくやく
そぶりをつく〳〵と 今の分「ぶんごてんぐはおろ〳〵み気をしてどよもやや
えてふんがア 今の分「坊さんまおりまさうト 今の分「でさくやく
ア今去がろうれんぞみ労(くろ)みるでも出来(でき)ろ。コレるのぜ
おぢいさんをだへごてるのぞ。そりやアろろうれんこりのぐぜ「ふこ
そこいつて
辺入(へいる)るものでさうまさんう。あるみさをべべごてへ残(のこ)まさんが。
あるまう
余(よ)ろく〳〵とうて居(い)まさうつろ〳〵ろるみを楽(たの)ま〳〵て。
ぶびまよろ〳〵ろ行来(ゆきき)を出(だ)て居(い)まさうつろ〳〵ろるみを楽(たの)ま〳〵て。
ぶびまよろ〳〵ろ行来(ゆきき)を出(だ)て居(い)まさうつろ〳〵ろるみを楽(たの)ま〳〵て。

うゝところくとお乳を休めてござりまんがうとうと
あるとのお夫。いろのうるさゝかゝゐでもお悪くへ
でござりませぬう（全）ナアニお主のくとりやアおりくござり。時〳〵ふさぐ
症ふるのよト（彼女きるくの苦労あれども男乳のそまこゝろ〳〵きぬ絢
の中。それからお添伯て。（全）「おるくちと
お乳だ〳〵ふは沢でもおあがんなさいませんかエ（全）「いやく（全）酒
よりハマアちつと森よう。全体久ふ番ござろう。どうも来らま
ね人処ござけがきのよもかとゝいも来れくう又葉ござらうと

乳ふるうてそまでゆうくーぬけて来ござのよ。一ト森入やい
ふう来るござろうト（小三のまゝ〳〵ようをゝ）「のりふ三。実ふ人のいつ
生ハどうするものうゝ考まれくのござの。今どうゝ新してござう
とハ。からアまふもも乳ぐつくれ人よ。まゝかけて支婦ごと。まふ
必ひかもふまこふ。お雪とうふ。悪魔ぐ。返入て。苦労をさせる
せうまさつゝさ。更ゆゑふてそ祖父さんや。お祝へいち倍
乳うねをするとのよも。アゝ
マアお雪さんのまをとやくとかつしゆるぐお雪さんを。

大ぜいのくお泉のお腹でこぞりまんてう。おいらひげで松の日法の字も云どうもあげてくださいまし。どうてもよろしうございませう。そんなにあちこちかれをつうつて必死てくださいますと私の苦労でくるりませんと。云だし泪ふくと六ツの。それのみまでまごころまんと。金五郎ふり仆る。兎より小二金五郎ふあいそづうをいやそれや泪のよべー

御届 明治十五年九月廿五日

東京日本橋区馬喰町二丁目一番地
彫刻出版人 木村文三郎

定價三十錢

東京圖書館

和書門
類 說
函 一九〇
架 三一
號 六
冊 三